

令和5年度第1回富山市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和5年8月10日（木曜日）

午前 10時開会

午前 11時20分閉会

2 場 所 本庁8階 第3委員会室

3 出席者 富山市長 藤井 裕久

富山市教育委員会

教育長 宮口 克志

委員 若林 啓介

委員 藤井 久丈

委員 高田 健

委員 石動 瑞代

事務局関係

教育委員会事務局

事務局長 砂田 友和

事務局次長（総務・社会教育担当） 古西 達也

事務局次長（学校教育担当）・教育センター所長 竹脇 孝志

教育総務課長 青山 哲也

学校再編推進課長 山口 雅之

学校施設課長 高瀬 雅基

学校教育課長 福満 弘信

学校保健課長 由水 正恵

生涯学習課長	加藤孝一
教育センター所長代理	荒瀬誠
教育総務課主幹	仙石正明
教育総務課長代理	塚本紘己
教育総務課管理係主査	渡邊藍子
企画管理部	
企画調整課長	高橋洋
企画調整課主幹	堀友彰

4 議題等

議題1 「第3期富山市教育大綱の策定について」

議題2 「GIGAスクール構想の推進について」

5 会議の要旨

○開会

○市長あいさつ

○議題1 「第3期富山市教育大綱の策定について」

教育総務課長から、以下の点について説明を行った。

- ・本会議の開催主旨について
- ・(資料1) 第3期富山市教育大綱・富山市教育基本計画の策定について
- ・(資料2) 第3期富山市教育大綱・富山市教育基本計画の策定に伴う体系の見直しについて
- ・(資料3) 第3期富山市教育大綱・富山市教育基本計画の構成(案)について

○意見交換

【藤井市長】

それでは、ただ今の件について、何かご意見があればお聞かせいただきたい。

【若林委員】

大綱及び基本計画の体系等の内容については良いが、優先順位を考える必要があるのではないかと。また、市にできること、法律の関係により国や県と共同して行うことがあると考えるが、例えば学校再編など市がある程度独自にできることは優先的に行うべきだと思う。

学校の働き方改革を盛り込んだのはとても良く、極めて重要なポイントである。主な取り組みである部活動の地域連携の推進もこの一環であると思う。民間企業においても残業時間の規制が厳しくなっており、全体的な経済活動に影響が出てくる。問題となっている教職員の著しく長い勤務時間は、優先順位を高くして取り組まなくてはいけないのではないかと。盛り込んである項目そのものに対し異論はないが、同じ順位づけではなく、書き込まなくてもよいが、意識の中で感覚を持つことは重要である。

10年ほど前の富山経済同友会の海外経済教育視察において、義務教育にとって重要なことは何かとの質問した際に、「1に先生、2に先生、3に先生」との発言があったことがとても記憶に残っている。現状では、教職員が魅力的な職業になっていない。これは長い時間軸で見たときに由々しき問題である。より良い教育を行うためには、より良い教育者をいかに確保するかが非常に重要である。人材確保のためには、人事権や給与権のない市がどこまでできるかということはもちろんあるが、学校の働き方改革は優先して取り組むべき課題の一つだと思う。

【藤井委員】

教職員の確保という点に関しては、教職員の位置付けをしっかりとした上で、保護者を含めみんなが支え従っていく雰囲気を作っていないと増えないだろう。

大綱に関しては、見直し時期の現状に合わせているのは非常に良い。富山市独自という観点から大切だと思うのは、1の矢の主体性のある子どもの育成の推進にあるイエナプラン的教育を進めていくことである。人生100年時代や少子高齢化など言われる社会の中で、子どもたちの生き方そのものが昔と大分違ってシンプルではない。自分たちでどうしていこうかと主体的に考える力を身に着けるイエナプラン的教育というのは光っていると感じる。

2の矢に関連すると思うが、市長挨拶にあったように、コロナの影響を考えた教育環境整備ということが気になる点である。子どもたちが数年間マスクを着けていたことにより、コミュニケーションがうまくいかないという弊害や健康的な弊害がある。新興感染症というものは、ひとまず落ち着いたように見えるが繰り返すものなので、そのような中でも教育の質が保たれるようにしていかなければならない。感染症流行下では、対面での教育においては教育のレベルが下がってくるのではないかと思う。心配せずに教育を受けられるようにワクチンもあるが、感染症の影響を減らすように考える必要がある。また、今夏の暑さのように気候変動もあるだろう。新興感染症、気候変動や災害等による影響を踏まえた教育環境整備についても大綱に盛り込んではどうかと思う。

【石動委員】

大綱等の案そのものはまとまっていて良い。特に基本的な方向1の「未来を切り拓く主体性のある子どもの育成」において、主体性のある子どもの育成が強調されており、項目のひとつとして置いてあることは大事であり、実際に計画を作成していく中で気を付けなければならないことでもある。主体性のある子どもの育成の中で挙げられている非認知能力やイエナプラン的教育は、評価が難しいのではないかと思う。学力のように量的評価中心ではなく、かなり質的な評価になる。非認知能力の育成というのはいわゆるウェルビーイングであり、社会の一員として協働的に生きていく一人一人を育てるための教育であると思う。学力に関連はするが、ウェルビーイングを目指しているという点の強調が必要ではないか。

幼児教育にも外国のメソッドがあるが、日本にそのまま取り入れることはできない。イエナプラン的教育においても、日本や富山の文化に合わせて取り出

して広めていく作業が必要であると思うので、その点が明確になったらよい。富山市でどのような活動をして学校に拡げていくのか、さらに、どのように富山市に応じた形で運営していくかというところまで書いてあると素晴らしいと思う。

教職員の問題では、非認知能力の育成やイエナプラン的教育になると、教育者の質はとても重要になってくるので、待遇もそうであるが、教職員の質向上も大事だと思う。

国の計画においてはインクルーシブ教育という言葉が用いられているが、特別支援教育の充実や多様な教育ニーズの項目において、この趣旨がしっかりと盛り込まれたらよい。特別支援教育の充実は個別最適である一方で、共生も大事である。

市の総合計画との関連であると思うが、子どもや家庭に関することは教育以外にもあるので、ヤングケアラーや貧困など関連領域との連携についても知りたいと思う。

【藤井市長】

地域で家庭を支えていくような取組みについては市の総合計画の中で実施している。非常に大事な視点からのご意見をいただいた。

【高田委員】

大綱や基本計画について異論はなく、素晴らしい内容になっていると思うが、なかなか実現していくのは難しいのではないかと。主な取組みの「体力の向上」に関し、30～40年ほど前の部活動においては、教職員が毎日の放課後や土日など休みなしに練習に付き合っていたが、最近では学校の働き方改革や部活動の地域連携の推進などがあり両立が難しいため、家庭での教育や指導が大事になってくると思う。学ぶ所は学校であるが、教育の基本は家庭であるので、保護者がどれだけ協力してくださるかが、この体力の向上や学力の定着につながってくるものと思う。ある程度、家庭で協力してもらうような体制づくりや市からのお願いなどが大事なのではないかと。

富山市のいじめ件数が増えていることに関しては、教職員の早期の気づきに

よるものであり、悪くないことである。しかし、いじめは以前からある問題であり、少しずつ減らしていかないといけない。道徳教育はより力を入れて行っていくべきであり、これを通じて児童には社会での人との付き合い方を学んでほしいと思う。

一昨年に草潤中学校を視察した。この10～20年で社会が変化しており、人との付き合い方がうまくできない生徒や勉強したくても学校に行けない生徒が一定数いる。富山市でもこのような子どもたちが勉強できるような環境を作ることが大切である。人や予算が関わるため、数年をかけて少しでも実現してもらえたらよい。

【藤井市長】

いじめや不登校の対応はしっかりと教育委員会で取り組んでもらいたい。教育長からご意見はあるか。

【宮口教育長】

教育委員の皆様からの話をありがたく、重く受け止め、しっかり取組みを行っていかねければならないと再認識した。今回の大綱及び基本計画は、「未来へつなぐ 富山市の教育」を反映し組み替えたものであるが、中身は大きく変わっているわけではない。新学習指導要領においては、「ゆとり教育の結果、学力が低下した。」「学力は低下したけれども、やはり人間性が大事であり、生きる力が求められる。」というように、両方の考え方を رفتり来たりしてきているが、総合的にどちらも大事だということで、いわゆる認知能力＋非認知能力、人間としてどう生きていくかを体系化したいということである。中教審答申や新学習指導要領改訂の理念を先取りした形で、令和2年度から主体的な学び研修会を開始したところであり、子どもたちにはこれからの正解のない先が見通せない中にあり、色んなことにチャレンジしていくことで社会を乗り切っていく力をつけていく必要があるのではないかということをも主題に置いた。イエナプラン的教育も同じ考えである。

若林委員から優先順位について、皆様から教職員の質向上について指摘があったところであるが、中核市である富山市は研修権をもっているため、主体的

学び研修会、ICT活用の授業やイェナプラン的学習の研修を新たに組み込み、学校での取組みをすべての小中学生の先生に見に来てもらって横展開していくことを行っている。学校の働き方改革や学校再編などの取組みをしっかりと進めながら、一丁目一番地である子どもたちの指導に関わる教職員の質の向上をどう確保していくか、必要なときに受けた研修を受けられるような教職員のニーズに合った研修の在り方についても、大綱中には言葉として書けないけれども、しっかりと取組んでいきたい。また、表記と併せて、どこまで記載できるのかを検討していきたい。

【藤井市長】

皆様から非常に貴重なご意見をいただいた。大綱や基本計画は良いが、優先順位、教職員の位置付け、教職員の質向上、研修という意見があった。主体的な学びは非常に大事であり、一番上に掲出しているのは富山市の特徴であると思う。非認知能力、ウェルビーイングを育てるためにイェナプラン的教育などあると思うが、どのように記載していくかを工夫していきたい。子ども、家庭、学校の繋がりにおいて、家庭からの協力は必要不可欠であり、家庭に対し協力を求めていくのは大切な方向性だと思う。大綱であるので理念が大事になってくるが、より具体性を出していく、成果目標があった方が分かりやすい。別の角度から再点検していきたい。

○議題2 「GIGAスクール構想の推進」

教育センター所長から、GIGAスクール構想の推進について説明を行った。

○意見交換

【藤井市長】

それでは、ただ今の件について、何かご意見があればお聞かせいただきたい。

【若林委員】

内容に異論はないが、最近の流れの中でいうと、G I G Aスクール構想の中に、チャットG P Tのような生成A Iの利用についての考え方、取扱いを入れておかないといけないと思う。

また、既に指導をされていることは存じているが、犯罪に巻き込まれないため、不正利用を防ぐために、危機管理教育を行っていく必要がある。これだけ日常的にI C Tを使うようになると、先へと進んでいく子どもたちが出てくる。

教育データの利活用に関し、端末の使用履歴が使われているとわかったら以後端末を使わないだろう。中学生になると自分のスマホを持っており、家のP Cを使う可能性もある。その辺りの教育も併せて考えていかなければならないと思う。

教育相談受付システムはとても重要である。2か月で500件近くあり、件数から見ても良い取り組みである。

端末の更新の問題はどうするのか。今後の財政状況を見極めたうえでどう実現するかである。

【藤井委員】

実際の映像を見て、児童がここまで使いこなしているのには驚いた。この映像の児童が大人になるのはすごいなと思う。逆の見方をすると少し怖いところもある。一人一台端末を持っているのが当たり前で、ものを考える、またコミュニケーションのツールとして端末がある中で、実際に皆をまとめ上げるとか、上手くいかないときにどこに収めるというようなノンテクニカルスキルはどうなるのか。顔を見て、話を聞いて、声のトーンで判断することができず、すべての行為に端末を介するとなると、端末と脳の一体化が起きてしまうのではないかとすら思う。教育としては、直感的な音楽や文化面の評価をしていかなければならないと思う。

【石動委員】

映像を見て、子どもたちが生き生きと学び合っている様子が見て取れた。児童は、P Cを使いながら伝え合うことができている、多様な価値観を受け入れ

ることに役立っていると感じた。一方で、自分のアイデアを話せる環境や入力できる環境は、教職員のスキルによるのではないかと思うので、教職員の質の向上も並行して大事である。

教育相談受付システムは、教育センターで一旦受けるというところが良い点であると思う。

端末の検索履歴を調べると、子どもが何をしたいと思っているのかの思考のプロセスが分かって教職員もサポートしやすい。日本の学習は積み上げ式で、一つ分からないとその先どんどんと取り残されていく傾向にあるが、それを解決でき、端末も使いようであると思った。藤井委員の話にもあったが、ここまでPCに慣れている世代ではないが、最近の大学生においては、平坦な文章を長く読むのが苦手であるので、同時に言語活動の支援が必要である。

【高田委員】

小学校2年生が器用に使いこなしている姿に驚いた。今の子どもたちは、生まれた時からスマホやタブレットがある世代であり、親の真似をして触ったりして操作は得意だと思うが、教職員間の格差は少しでもなくしてほしいので、研修を行ってもらいたい。また、すべての子どもたちが良い環境で受けられるように、推進校になっている学校と他校との学校間の格差もなるべく早めに解消するようにお願いしたい。

端末は、子どもがいかに良い教育を受けられるかのための道具であるので、対面の授業と上手く併用して、より良い質の高い教育を受けられる道具として使用してほしい。

【藤井市長】

教育委員の皆様から納得するご意見が寄せられた。教育長から何かご意見はあるか。

【宮口教育長】

GIGAスクール構想の推進は、総務省の戦略もあり、コロナの関係で前倒しになったものである。端末の使用=GIGAスクールと思われる方もいるが、

グローバルやイノベーションのゲートウェイであり、革新的な教育を推進するためのツールである。映像をご覧いただいたが、児童全員が前を向き一斉一律に教職員から指導を受けるといったような我々が受けてきた教育と違い、答えのない課題に対し一人一人が自らの課題に取り組んでいく姿が見て取れた。

では、子どもたちが主体的に動いているときに先生は何をしているのか。一人一人の子どもが課題に向かい歩んでいる中で、子どもたち一人一人に、より高みを目指すための支援ができる教職員を育てていかなければならないのであり、これまで以上に教職員の質が問われる。研修の充実等さまざまなことに取り組んでいかなければならない。

スプレッドシートは友達の考えが一覧で見える。一斉授業であると、手を挙げて発言をする児童の考え方しかわからなかったが、このシートを用いることにより、発言していない児童の考えを皆で知ることができる。考えを知ることにより、その児童と会話をすることが起きている。一人一人の可能性や児童の持つ力がもっと生かされる教育環境を作り出すことができる。また、コミュニケーションが生まれる可能性があるので、ツールとしての端末をより有効に活用するための方策を行っていかなければならない。さらには、格差を是正するために、横展開し、市内すべての小中学校でどの学校においても質の高い教育を受けられるようにする必要がある。

教育相談受付システムについては小学生の利用が多いが、児童・生徒にアンケートを取ると、小学生は意外にも先生に言い出せていない。一方で中学生は自分から先生に相談できている。できていなかった児童・生徒が、このシステムをきっかけに些細なことでも相談できるという体験をすることにより、先生に相談したら話を聞いてもらえ上手く解決できたという経験を積んで、システムを介在しなくても先生に相談できるようになればと思う。両輪と考えている。

端末の更新については、国においては、次期更新時も財政措置をする必要があるのではと示唆している。教育委員会連合会、全国都市・中核市教育長会など様々な団体を通じて国に要望していきたい。

【藤井市長】

現場での取組みが非常に良いというお言葉をいただいた。一方で問題点もあ

り、端末を使用することにより、犯罪などが起きないように使い方の教育やリテラシーの教育を行っていくこと、また、差が生じないよう教職員の知識やスキルを平均化していくことなど、しっかりと取り組んでもらいたい。

端末の更新に関する予算については大問題である。全国市長会、議会、市議会議長会等を含めて声をあげ予算を確保したい。

それでは、事務局に進行をお返ししたいと思う。

【砂田事務局長】

総合教育会議は、本市の教育分野における課題やあるべき姿を共有し、地方公共団体の長の権限に属する事務との調和を図ることを目的として開催しております。本日、頂いたご意見につきましては、必要に応じ、市長部局との意思の疎通を図ることなどを通じながら、職務の遂行に万全を期してまいります。

○閉 会